

第五節 靈魂、妖怪

- (二) マーファイ(人間の靈魂・死靈)
「ユタ」の項参照

天地自然に左右されていた時代の人々が、偶発的なものに畏怖の念を抱き、突然変異に驚き、目に見えないものを恐れ、異様を感じたとき、そこに想像上の妖怪変化が生まれたものと思われる。その出没する場所をヌンギドゥクル(怖い所)といい、夜間そこを通ることを嫌った。そして、その妖怪はだれでも感知できるというものではなかった。

一 靈魂

(一) チューダマ(人魂)
火の玉となって現れる。または青い丸い玉ともいわれる。身分が高く人徳の備わった人の靈魂は死亡に先立ってチューダマとなって昇天すると考えられ、それが飛ぶと近日中のような人が亡くなる前兆だといわれた。

二 妖怪

(一) ガワル(河童かわづむら)
全国的なものであるが、人間に似ているが身体は小さく頭に皿をかぶり、相撲が強いといわれている。川に住んでいて、水浴びをしている子供たちを引っぱり込むといわれている。

(二) シューワワ(白豚)

樹木が繁茂して昼でも薄暗い所か、辻つじに日暮れからよく出て、これにまたをくぐられると死ぬといわれている。

(三) テインナビ

天から降りてくる妖怪で、樹木の生い茂った場であられ、木の枝から血がしたり落ちると言われている。

(四) トウールマチ(鬼火)

トウブリマチともいわれ、小雨の降る夜に海岸の岩窟がんくとか、集落から離れた丘の上などに青白い炎を出して、チラチラ燃えたり消えたりする。その場所は昔の風葬跡で、人骨の燐りんが燃えているともいわれている。

(五) ヌンギムン(怖いもの)

妖怪、怖いものを総称するという言葉である。体力や力業、仕事量など人並以上の優れた能力を持っている人にもいう。

(六) ハジ

亡霊が昇天できず、さまよっているもので、これが家畜に災いして病気をさせ、これに人が出合うことを「ハジイチョユン」「ハジニアタタン」といって、悪寒に襲われ発熱させるといって怖がっていた。

(七) ハミシドロー

物怪もののけによる身体の疲れ、何か不吉な前兆といわれる。

(八) ヒジャマ(火玉)

火禍の精で、鶏に似て赤いほかむりをし、空のかめやおけなどに宿るものとされた。また、赤い火の玉であるともいわれ、海から飛んできて、それが飛んでいった方角で近日中に火事があるといわれている。

(九) ヒーヌムン(木の精)

信仰「木の信仰」参照

(十) フーシジ

大きな黒牛のような形をし、牛の鼻息のような音をたてて、風を巻き起こし、草木を揺るがして通り過ぎる。これに当たると、(六)「ハジ」と同じ症状を起こす。

(十一) マジムン、またはムン

前述の「ヌンギムン」と同じで、妖怪を総称した語。

(十二) ムンソイ(ムンザイ)

靈魂の作用による凶事の前兆。